

<b>学外実習</b> (Internship)	<b>4 年・夏季・1 単位・選択</b> <b>電子制御工学科・担当 玉木 隆幸</b>	
〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (4)	〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標〕 D-2(80%), A-2(20%)	〔JABEE 基準〕 (d-2d), (i), (b)
<p>〔教育方法等〕</p> <p><b>概要：</b> 企業などでの実習を通じて、技術者の心構えや社会人としてのあるべき姿を学ぶ。また、これまでに学習してきた専門知識がどのように応用されているのかを知り、今後の学習に役立てるとともに、自主性、創造性、協調性を身に付ける。</p> <p><b>授業の進め方と授業内容・方法：</b> 原則として実習先の企業などで用意されたテーマの実験、あるいは実務を体験することになる。</p> <p><b>注意点：</b> <b>関連科目</b> 電子制御工学科専門各科目。</p> <p><b>学習指針</b> ・実習先で発行される学外実習修了証明書、実習中に担当者に提出する業務日誌、実習修了後に学内提出する成果報告書、および成果報告会すべてを満足することで評価対象とする。 ・実習中は安全に留意すること。 ・実習者は保険に加入することを義務づける。 ・学外実習を通して必ずしも一つではない解をもつ問題に取り組むことを体験し、自主的に取り組む姿勢を学ぶこと。 ・実習においては、専門知識のみならず、一般社会常識も必要であるから、これらについては日頃から学習しておくこと。</p> <p><b>自己学習</b> 実習先の企業をよく研究し、事前準備を怠らないことが重要である。</p>		
<p>〔教科書〕 なし</p> <p>〔補助教材・参考書〕 過去の学外実習報告書、ガイダンス資料、学外実習事前指導資料などの配布プリント</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習中に必要とした専門知識とこれまでに学んできた知識との関連を把握する。</li> <li>2. 実習先の技術者と積極的に交流し、それによって得た知識・作法を今後の学習に生かす。</li> </ol>		
<p>〔評価割合〕 実習先で発行される学外実習修了証明書と業務日誌 (50%), 実習成果報告書 (25%), 学内における学外実習成果報告会での発表 (25%) を総合的に評価する。学外実習、および、成果報告会を両方行うことが単位認定の条件であり、実習態度などに問題なく、成果報告も十分である場合に電子制御工学科全教員で協議して「単位認定」する。</p>		

## 授業計画

	週	授業内容・方法	到達目標	自己 評価*
前期	1 週			
	2 週	1. 実施時期	夏季休業期間中	
	3 週	2. 実施期間	5 日間以上にわたり，合計 30 時間以上従事	
	4 週	3. 実習の内容	設計，生産技術，生産管理，品質管理，実験および実験助手， 機能・性能・材料試験，販売，サービスなどの分野	
	6 週	4. 学外実習先	学科が認めた実習先 (民間企業，高専機構との連携がある研究機関，行政機関)	
	7 週	5. スケジュール	5 月 学外実習ガイダンス ・概要説明 ・実習先企業の紹介と実習内容の説明 ・安全教育 ・希望調査と割り振り	
	8 週			
	9 週			
	10 週		6 月 事前研修会 ・学外実習の心構えなどの事前学習 ・講演会出席（外部講師）	
	11 週			
	12 週		7 月～8 月 実習 ・実習先でのオリエンテーション ・実習 ・日誌および報告書の作成	
	13 週			
	14 週		9 月 学外実習のまとめ ・成果報告書の提出 ・学外実習の成果報告会	
	15 週			
	16 週			
後期	1 週			
	2 週			
	3 週			
	4 週			
	6 週			
	7 週			
	8 週			
	9 週			
	10 週			
	11 週			
	12 週			
	13 週			
	14 週			
	15 週			
	16 週			

\* 4：完全に達成した， 3：ほぼ達成した， 2：やや達成できた， 1：ほとんど達成できなかった， 0：まったく達成できなかった。